

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2021・11月号

石川県学校生活協創立 72 年目 健康経営（健康・清潔・迅速・丁寧・挑戦・学習・笑顔）

かがやき健康企業宣言の「優良企業」に選ばれる！

「かがやき健康企業宣言」の事業所は、2016年5月にスタートし、2021年3月に1000社を超えています。健康経営への関心が高まり、石川県学校生活協もいち早く加盟しました。加盟することによって、協会けんぽから様々な支援を無料で実施していただいています。例えば、「事業所カルテの提供」事業所内で生活習慣病のリスクの割合が、県平均や同業態の平均と比較でき、毎年の状態が分かってきました。昨年、特に成績が良く、生活習慣病のリスクが減少傾向にあることが分かりました。「職場における健康出前講座の実施」専門の講師が職場に訪問訪れ、今まで「腰痛・肩こり予防のための軽運動」や「心身のリックス効果があるヨガ講座」などをして頂きました。このように石川県学校生活協は、従業員の健康を考え取り組んできました。



その結果、「優良企業」に選ばれ、優良企業のロゴマークの使用を許可されました。これからも、出来る限り職員の健康には注意して経営していきたいと思えます。

上半期の経常剰余は予算を751万円上回りましたが△111万円の赤字でした。

9月までの上半期で好調部門は、カタログ508万円（予算比119% 前年比114%）、リフォーム1,096万円（予算比91% 前年比257%） 指定店一般1,667万円（予算比123% 前年比140%）、ガソリン事業6,424万円（予算比123% 前年比110%）となりました。総供給高は32,481万円（予算比98% 前年比101%）となりました。事業総剰余金は、6,104円（予算比98% 前年比100%）でした。ここ数年の中では、上半期の赤字幅が最も少なくなりました。新型コロナウイルス感染者数の激減で、今後の業務が速やかに行えることを願っています。そして、この第三四半期で黒字化が実現できるよう頑張ります！

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

『デカルト』

北本 豊春

ルネッサンスの時期。近世が始まると、科学的技術と哲学が失われた中世を抜けて哲学理論を再構築しようとする哲学者が出てきました。フランスのルネ・デカルトです。ポワティエ大学で法学・医学を修得すると、学園を離れて世間に出て学ぶ暮らしをします。オランダやドイツへの遍歴を経た後で、オランダに移住して、哲学研究に取り組み生活に身を置きます。『世界論』を書き、機械論的世界観を主張しました。数学者だったデカルトは、あらゆる事柄に対して、数学的に仔細に組み立てることを意図しました。まず身の回りにある全ての事象を洗い直そうとします。それまで当然だと思われていたことや、普遍的だと考えられていたことを最初から疑いの姿勢で見つめて、吟味し直そうと試みたのです。全てのものを疑問の目で見ると、確かなのは何かと考えるようになります。そこで『疑っている自分自身』だけは疑いようがないという事実を思い至ったのです。『コギト・エルゴ・スム』『われ思う、故にわれあり』と言う有名な一文が生まれることになりました。数学・幾何学研究を基にして、哲学の方法を示した『方法序説』を著しました。その中では哲学を研究するための四種の規則を提唱しています。明証の規則。分析の規則。総合の規則。枚挙の規則です。曖昧な思索ではなくて、数学的に明快な四種の規則に則って探求を進める方法を提唱したのです。論理的思索を求めたデカルトは近代哲学の父と呼ばれています。

編集後記

三毒とは
三毒って何だと思いませんか？すぐに分かる人は、仏教の中身を知っている方ですね？私は全く知りませんでした。今読んでいる釈徹宗（しゃく・てっしゅう）さんが書いた「いきなりはじめる仏教生活」という本の中に書いてありました。苦を生み出す原因の中でも、特に主要なもの三つ、ビッグ3を仏教では「三毒」と呼びます。「食欲（とんよく）」「瞋恚（しんに）」「愚痴（ぐち）」の三つです。「食欲」とは、「過剰な欲望」のことです。過剰な欲望に振り回されてバランスを崩すことが苦しみを生み出すことは容易に想像がつかれます。この制御不能の食欲の連鎖から離脱することを「離食（りどん）」と言います。今回は「瞋恚」について述べたいと思います。（考える道祐）